
バカと天才？たちと召喚獣

SHIN.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと天才？たちと召喚獣

【Nコード】

N1068Z

【作者名】

SHIN .

【あらすじ】

科学とオカルトと偶然によって開発された「試験召喚システム」を試験的に採用し、学力低下が嘆かれる昨今に新風を巻き起こした文月学園。

そこに二年の振り分け試験直前に転校してきた7人の天才？とFクラスのバカたちとAクラスの優等生たちが繰り広げる学園物語です。この作品が処女作ですので駄文+亀更新になるかもしれませんがそれでもよければ読んでください。

プロローグ（前書き）

はじめまして、SHIN・と申します。

文才もなく、駄文になるかもしれませんが、よろしくお願ひします。

プロローグ

振り分け試験日

明久side

時刻8時55分

「おはよーございます鉄・・・西村先生！」

鉄人「吉井、遅刻・・・なぜそんなにボロボロなんだ？」

「いやーくる途中にチンピラに絡まれてる女の子を助けてたら遅れちゃって〜」

鉄人「くだらん冗談はいいから早く服を着替えて試験会場に行け（まったくこのバカは・・・）」

「はい！」

僕は校門前で鉄人に挨拶してから、更衣室で体操服に着替えてから試験会場へ向かった。

「おはよー雄二」

雄二「ん？遅かったなバカ久」

明久「来て早々人を罵倒しないでよ！僕はバカじゃないし！雄二も大差ないじゃないか！」

康太「・・・振り分け試験の日に遅刻する奴なんてバカしかいない」

島田「仕方ないないわよ、吉井はバカなんだし」

「みんな酷い！これにはひじょ〜に深い訳が・・・」

秀吉「まさか振り分け試験のときに遅刻とはもう・・・」

「だからちがうつてば！」

雄二「なら何故遅刻したんだ？」

「それには深〜い事情があつて・・・」

雄二・秀吉・康太・島田「・・・」
（・・・）寝坊（だな！）（じゃ

な！）（ね！）「「「」

「待つて！まだ何もいつてないよね！？」

大島先生「次の教科の試験始めるから全員席に着けよ」

振り分け試験終了後

「これならCクラスくらいいいけたんじゃないかな？」

雄二「安心しろ明久、お前はFクラスで確定だ」

「なんだと！10問に1問は書けたはずだからDにはいつてるはずさ！」

4人（（（（やっぱり吉井はバカだな））））

明久「みんなどうして僕をあわれむような目でみるの？」

明久side out

優璃side

優璃家にて

時刻20時30分

「ハア・・・（今日の朝、変な人たちに絡まれていた私を助けてくれた人・・・たしか文月学園の制服着てたよね？ならまた会えるかな？）」

葵「どうかしたの？優璃」

「ううん、なんでもないよ！」

葵「それならいいけど」

「それより葵、振り分け試験受けなくてよかったの？」

葵「いいのいいの、私は演劇ができればどのクラスだっていいし、

麗奈も心配だしね」

葵は笑顔でそう答えた。

麗奈「・・・ごめんなさい」

葵「麗奈が謝ることはないでしょ」

「そうだよ」

麗奈「・・・でも」

葵「気にしないの、それに和くんもFクラスだから」

「え？和くんはAクラスのボーダー越えてたはずだけど・・・」

麗奈「・・・和くん寝坊したんだって」

「なにやってるの和くん・・・」

葵「まさか振り分け試験の日に寝坊するとは・・・」

ピンポン

「誰かな？」

葵「ちよつといつてくるね」

和哉「お邪魔しま〜す」

葵「噂をすれば・・・だね」

和哉「???」

「寝坊くん、どうしたの？」

和哉「うっ!?!?どうしてそれを」

「葵から聞いた〜」

和哉「葵さん!どうしてしってるんですか、今日試験受けてないでしょ!?!」

葵「学園にいる知り合いに聞いたんだよ、小学生が振り分け試験に遅れてきたって」

和哉「小学生じゃない!」

「試験の前の日に夜更かしして寝坊するくらいだから説得力ないけどね〜」

和哉「・・・(シクシク)」

麗奈「・・・ところで優璃は大丈夫なの？」

「私は多分問題ないとおもっけど」

麗奈「・・・優璃とも一緒のクラスがよかった」

「来年は同じクラスになれると思うよ、麗奈も頑張ってるし」

麗奈「・・・来年はみんなでAクラス」

葵「そういえば、宗くんと薫ちゃんと蓮くんは？」

麗奈「・・・薫は問題ないって言った」

「宗くんと蓮くんは特例で別の日に振り分け試験受けたらしいよ」

麗奈「・・・あの3人はAクラス確定のはず」

葵「そうだね」

「そういえば次の登校日っていつだっけ？」

葵「たしか始業式の日だよ」

「そうだったね、はやく学園に行きたいんだけどね（あの人に早く会いたいし）」

葵「そうだね。さてと、それじゃあ麗奈の日本語の勉強でも手伝うよ」

麗奈「・・・ありがとう」

「和くん・・・いつまで泣いてるの・・・」

和哉「・・・僕は小学生じゃない・・・（シクシク）」

優璃 side out

第1話 & 1 t ・ 転校生たちと自己紹介 & g t ;

明久 s i d e

鉄人「遅いぞ！吉井！」

「おはようございます西村先生！」

鉄人「吉井・・・おはようございますじゃないだろう」

「え？ えーつと・・・今日も肌が黒いうえに暑苦しいですね？」

鉄人「お前は遅刻の謝罪より、俺を罵倒する事と肌の色の方が大事なのか？・・・まあ良い、受け取れ」

「掲示板とかに張り出したほうが楽じゃないですか？」

鉄人「まあそれもそうなんだがな、ウチは試験校として有名だから色々問題があるんだ」

「へえ、さて何クラスかなつと（きつとDくらいは・・・）」
もらった封筒の端を破き、中に入っていた紙をみると。

『吉井 明久・・・Fクラス』

二年Fクラスの前。吉井明久は躊躇していた。

「遅刻なんてして、みんなの印象悪くなってないかな・・・？」

「なんて考えすぎだよね！」

軽快に扉を開けて入った。

「すみません。ちょっと遅れちゃいました」

雄二「早く座れこのウジ虫野郎！」

(・・・へ?)

雄二「聞こえなかったのか？ああ？」

(それにしてもなんて物言いだろ。いくら教師でも失礼すぎる。)
僕はにらみつけるように教壇に立っている教師を見た。

「・・・雄二、何やってんの？」

教壇にいたのは明久の悪友、坂本雄二だった。

雄二「先生が遅れてるらしいから代わりに教壇に上がって見た、なんか転校生がこのクラスに来るらしいぞ」

明久「そうなんだ」

F「「「「なにー！？」転校生だとおおお！？」」「」「」

F「男か！？女か！？」

雄二「男子1人、女子2人らしいぞ」

F「「「女子がくるぞー！！」「」

F「「「「うおおおお！！」「」

「で、何で雄二が先生の代わりを？」

雄二「一応このクラスの最高成績者だからな」

「え？それじゃ、雄二がこのクラスの代表なの？」

雄二「ああ、そうだ」

(雄二さえ説得すればこのクラスは僕の思いどおりに・・・)

雄二「これでこのクラスの全員が俺の兵隊だな」

(考えることは、同じなんだな)

「それにしてもさすがはFクラス。ひどい設備だね」

Fクラスの面々はみんな床に座っている。椅子なんてものはないらしい。

福原先生「えーと、ちょっと通してもらえますかね？」

そこには寝癖のついた髪によれよれのシャツを貧相に着た、いかにもさえない風体のオジサンが居た。

このクラスの担任だ。

福原先生「それと席についてもらえますか？HRを始めますので」

僕と雄二がそれぞれ返事をして席に着く。

先生は明久たちを待ってから壇上でゆっくりと口を開いた。

福原先生「えー、おはようございます。二年F組担任の福原慎です。

よろしく願います。」

福原先生は黒板に名前を書こうとして、やめた。

チヨークすらまともに見えないだな。

福原先生「皆さん全員に卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があれば申し出てください」

F「せんせー、座布団に綿が入ってないです」

福原先生「我慢してください」

F「せんせー、卓袱台の足が折れました」

福原先生「ボンドで直してください」

F「せんせー、窓が割れてて隙間風が寒いです」

福原先生「ビニール袋とセロハンをあげますから直してください」

(・・・ひどすぎる)

福原先生「では、自己紹介でも始めましょうか。そうですね、転校生からやってもらいます。一ノ瀬君、川崎さん、水無月さん、入ってきてください」

福原先生がそう言うのと、転校生の3人(小学生の男の娘と長い黒髪を後ろで束ねている女の子とセミロングの金髪の女の子)がFクラスに入ってきた。

福原先生「まず、一ノ瀬君。軽く自己紹介してください。」

和哉「えっと、一ノ瀬 和哉といいます。趣味は絵を描くことです。

一年間よろしくお願いします」

F「どこからどうみても小がk・・・ひっ!？」

(な・・・なんだこの殺気は!?)

和哉「僕は小学生じゃないですので間違えない様をお願いします(

ゴゴゴゴ・・・!)」

一ノ瀬君は黒いオーラを出しながらF生徒にそう言い放った。

福原先生「つつ次は、川崎さん。自己紹介を。」

葵「川崎 葵です。部活は演劇部に所属する予定です。一年間よろしくお願いします。」

長い黒髪を後ろで束ねている子がそう言った。

秀吉「葵殿ではないか!？どうしてここにいるのじゃ?」

「秀吉の知り合い?」

秀吉「まあ、そんなところじゃ」

葵「あ、秀吉君もFクラスなんだ？」

秀吉「うむ。しかし葵殿はAクラス確実の成績だったはずじゃが？」

葵「麗奈が心配だったから。振り分け試験受けなかったんだよ。」

福原先生「え、雑談は後にしてください。」

葵「あ、すみません」

福原先生「水無月さん、自己紹介を」

麗奈「・・・はい。・・・水無月 麗奈です。・・・よろし

くお願いします。」

と、綺麗な金髪の女の子が言った。

F「質問いーですかー？」

麗奈「・・・はい」

F「親が外国人なんですか？」

麗奈「・・・母がイギリス人」

葵「ちなみに最近までイギリスにいたから、少し日本語が苦手だか

ら話すときはゆっくり話してあげてね」

(帰国子女か・・・島田さんと同じで大変なんだろうなあ・・・)

福原先生「次は、廊下側の人から自己紹介をお願いします」

秀吉「木下 秀吉じゃ。演劇部に所属してある」

(秀吉、今日もかわいいなあ)

秀吉「よく間違われるが僕は女子ではなく男子じゃ・・・」

和哉(木下君も苦労してるんだね・・・)

康太「・・・土屋 康太・・・特技は盗りじゃなくて盗s・・・特

にない」

和哉(・・・聞かなかったことにしよう)

島田「島田 美波です。海外育ちで日本語は会話は出来るけど読み

書きが苦手です。趣味は吉井 明久を殴ることです」

明久「誰だ！そんなピンポイントで危険な趣味を持つてる子は！？」

和哉・葵(あの子とはあまり関わらないほうが良さそう)

あとは名前をいうだけというのが続き、明久の順番までまわってきた。

「そっか、よかった」

福原先生「はいはい。静かに・・・」

バンバン！！・・・バキッ！

教卓が木っ端微塵になった。

（さすがに酷すぎるよ）

福原先生「え〜。代えを持ってきますので、皆さんは自習をしていてくださいね」

「・・・ねえ雄二、ちよつと良い？」

雄二「ん？なんだ？」

和哉（おもしろそうだから、盗み聞きしようかな）

雄二を伴い廊下に出た。

姫路「吉井君、どうしたんでしょうか？」

葵「姫路さん、吉井君が気になるの？」

姫路「え？、えつと」

葵「川崎 葵です。姫路さん、よろしくね。」

麗奈「・・・水無月 麗奈」

姫路「こ、こちらこそよろしくお願いします」

廊下にて。

「ねえ雄二、試召戦争を仕掛けてみない？」

雄二「この前学校の設備なんざどうでもいって行ってなかったか？・・・姫路のためか？」

「ち、違うよ!？」

雄二「素直じゃねえな。まあどうせ、試召戦争はやるつもりだった。世の中学力こそがすべてじゃないって事、その証明がしてみたくてな」

和哉（新学期初日から仕掛けるのか・・・ま、とりあえずはFクラ
ス代表の手腕をみせてもらいますか）

雄二「先生が戻ってきたみたいだし、戻るぞ」

再び教室にて。

福原先生「えーと、坂本君キミが最後ですよ。クラス代表でしたよね？前に出てきてください」

雄二「了解、Fクラス代表の坂本雄二だ。代表でも坂本でも好きなように呼んでくれ」

雄二「コホン。さて、皆に一つ聞きたい。・・・Aクラスは超豪華待遇らしいが・・・不満はないか？」

F×41「大アリじゃあッ！」

雄二「だろう？俺だってこの現状は大いに不満だ！」

F「いくら学費が安いからってこの設備はあんまりだ！」

F「Aクラスだって同じ学費だろ！？」

F「改善を要求する！！」

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う！」

第2話 & 1 t ; D クラスに宣戦布告へ & g t ;

雄二「そこで代表としての提案だがFクラスはAクラスに対し『試験召喚戦争』を仕掛けようと思う!」

F「そんなの勝てるわけがないだろ?」

F「これ以上設備が落ちたらどうなるんだ」

F「姫路さんがいたら何もいらぬ!」

F「麗奈さんがいるだけで僕は満足です!」

雄二「そんな事はない、必ず勝てる。いや俺が勝たせて見せる」

F「無理に決まってやるじゃん」

F「そう言われても何の根拠もないしなあ・・・」

雄二「根拠ならあるさ。このクラスには勝つことのできる要素が揃っている」

雄二は自信ありげにそう宣言した。

雄二「おい康太、いつまで姫路と川崎、水無月のスカートを覗いてるんだ」

3人「・・・えっ!?!」

3人は素早くスカートを押さえた。

雄二「土屋 康太 こいつがああ有名な寡黙なる性職者だ」
そういうと康太は首を横に振った。

F「馬鹿な・・・奴がそうだといいのか?」

F「見る! まだ証拠を隠そうとしているぞ・・・」

F「ああ、ムツツリの名に恥じない姿だ」

雄二「それに姫路の事は皆その実力をよく知っているはずだ」

姫路「え? 私ですか?」

(姫路さんは学年トップ5に入っているほどの学力だからね)

雄二「ああ、ウチの主戦力だ期待している」

F「そうだ! 俺達には姫路さんがいる!」

F「彼女ならAクラスにも引けをとらない！」

雄二「それに木下 秀吉だっている」

秀吉「ワシもか？」

F「演劇部のホープ！」

F「確かAクラスに木下 優子っていう姉がいただろ」

雄二「そのほかに島田もいる」

島田「えっウチ？」

雄二「島田は数学だけならAクラスにも匹敵する。当然俺も全力を尽くす」

F「坂本って小学校の頃『神童』とか呼ばれてたんだろ」

F「確かになんかやれそうな気がしてきたぞ」

F「これはいけるんじゃないか!？」

F「よし! やってやるうじゃねーか!！」

教室の士気が高まっていったが・・・

雄二「それに吉井 明久だっている」

シーン・・・

F「誰だよその吉井 明久って」

「雄二。何でそこで僕の名前をだすのさ!？せつかく上がった士気が台無しじゃないか！」

雄二「そうか、知らないのなら教えてやる。こいつの肩書きは『観察処分者』だ!！」

F「確か観察処分者って『馬鹿の代名詞』じゃなかったっけ？」

「ちつ違つよ!！ちよつとお茶目な16歳の愛称で・・・」

雄二「そうだ『馬鹿の代名詞』だ」

「肯定するなバカ雄二!！」

姫路「あのそれってどういうものなんですか？」

雄二「観察処分者っていうのは具体的には教師の雑用係だな。

力仕事とかの雑用を特例として物に触れるようになった召喚獣でこなすんだ」

姫路「それって凄いですね! 試験召喚獣って見た目と違って力持ち

らしいですし」

姫路さんが僕に期待の眼差しを向けている。

「あはは。そんな大したものじゃないよ。確かに僕なんかの点数でも召喚獣の力はかなり強いけど、その時受ける召喚獣の負担の何割かは僕にフィードバックされるんだ。皆と同じで教師の監視下でしか呼び出せないし、僕にメリットもないしね」

F「おいおい・・・じゃあ召喚獣がやられたら本人も苦しいって事だろ？」

F「だよな・・・それならおいそれと召喚できないヤツがいるって事じゃん」

雄二「気にするな！明久はいてもいなくても大して変わらん雑魚だ」
「・・・雄二そこは僕をフォローするところだよな」

葵「坂本君、さすがに酷すぎない？」

「川崎さん・・・」

葵「葵でいいですよ」

「葵さん・・・ありがとう」

雄二「まずは俺達の力の証明としてまずDクラスを制圧しようと思う。皆この境遇に大いに不満だろう？」

F「・・・当然だ！！」

雄二「なら全員筆を執れ！！出陣の準備だ！」

F「・・・」
「おおーーーーーッ！！」
「・・・」

姫路「おッおー／／／」

姫路さんも恥ずかしげに手をあげていた。

雄二「明久にはDクラスへの宣戦布告の死者になってもらう」

「ねえ雄二今字が間違ってた？それに下位勢力の使者ってたいてい酷い目に遭うよね？」

雄二「大丈夫だ。騙されたと思って行って来い」

和哉「一緒に行こうか？」

麗奈「・・・私も」

「えっ？一ノ瀬君に水無月さん、いいの？」

和哉「和哉でいいですよ」

麗奈「・・・麗奈でいい」

「ならこっちも明久でいいよ。それじゃあ行こうか、和哉君に麗奈ちゃん」

和哉・麗奈「（・・・）はい」

こうして3人でDクラスに向かった。

オリキャラ紹介(1) (前書き)

タイトルの通りオリキャラ紹介です。

オリキャラ紹介(1)

名前：神谷 優璃 性別：女

読み：かみや ゆり

誕生日：7月10日

身長：153cm(B)

所属クラス：2-A(代表)

得意教科：英語

苦手教科：数学

趣味：読書・ゲーム

特技：料理

外見：髪色・髪型は霧島にそっくりだが、体格は霧島よりややスレンダーで、顔は綺麗というよりは可愛い系。

性格：恥ずかしがり屋だが、意外と頑固者。人を見下す奴が大嫌い。

・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。

・明久と同じマンションに(川崎 葵)(水無月 麗奈)と共に住んでいて隣同士。

・実は大財閥のご令嬢。

*

名前：川崎 葵 性別：女

読み：かわさき あおい

誕生日：4月17日

身長：156cm(C)

所属クラス：2-F

得意教科：古典・現国・英語

苦手教科：数学・物理・化学

趣味：演技の練習、演劇鑑賞

特技：演技、声帯模写

外見：黒髪長髪を後ろでくくっている。美人ではあるが、男の子より演劇命なので、モテてはいるものの、すべて断っている。

性格：温厚な性格だが、友達や演劇をバカにされると人が変わったかのように怒りを表す。

・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。

・明久と同じマンションに（神谷 優璃）（水無月 麗奈）と共に住んでいて隣同士。

・秀吉とは少しだけ面識がある。

・振り分け試験は（水無月 麗奈）があまりにも心配だったため、わざと受験しなかった（実は総合科目で霧島 翔子よりも上の成績を出せるほどの学力がある）。

*

名前：水無月 麗奈

性別：女

読み：みなづき れな

誕生日：2月21日

身長：155cm（B）

所属クラス：2-F

得意教科：英語・数学・化学・物理

苦手教科：それ以外（半分近くは一桁）

趣味：料理・お菓子作り

特技：料理・お菓子作り・裁縫

外見：髪は肩にかかるくらい金の髪で、顔は目鼻立ちもよく、前いた学校ではファンクラブができるほどの美女。

性格：重度の人見知りで、Fクラスでは基本的に、葵・和哉・明久・

秀吉以外とは基本は話さない。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・生まれてから人生のほとんどを外国ですごしているため、日本語がほぼわからない。(普段の会話程度ならなんとかなる。)
- ・明久と同じマンションに(神谷 優璃)(川崎 葵)と共に住んでいて隣同士。
- ・振り分け試験は問題がほとんど読めないため、Fクラス入り。

*

名前：一ノ瀬 和哉 性別：男

読み：いちのせ かずや

誕生日：3月26日

身長：141cm

体重：30kg

所属クラス：2-F

得意教科：物理・化学・数学

苦手教科：日本史・世界史・古典

趣味：読書・絵を描くこと

特技：絵を描くこと

外見：髪色・髪型は明久によく似ている。顔は小学生の男子から告白されるほど。その体格のおかげで、制服を着ても小学生にみられるほど。

性格：見かけによらずしつかり者でちょっと腹黒い一面も。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・文月学園の3-Aクラスに異母兄弟の姉と兄がいるが、とある出来事以来、離縁状態。

・振り分け試験は遅刻し得意教科の理系3教科を受験できず、Fクラス入り。

第3話 & 1 t ・ 作戦会議 & g t ; (前書き)

最近急に寒くなってきてちょっと風邪気味です・・・

第3話 & 1 t ・ 作戦会議 & g t ;

「ただいま雄二、Dクラスに宣戦布告してきたよ」

雄二「おい、明久ちよつといいか？」

「ん？どうしたの雄二？」

雄二「いや、ぶっちゃけお前が酷い目に遭うと思っていたんだが・・・」

「ああ、うん。和哉君が嘘泣きでもしてDクラスの人たちの気をそらしてくれなければ絶対酷い目に遭ったね。」

雄二「まあいい（無事だったか）、今からミーティングを行う！明久、宣戦布告してきたんだな」

「一応、今日の午後に関戦予定と告げてきたけど」

葵「じゃあ、先にお昼ご飯だね」

雄二「そうするか。明久、今日ぐらいはまともな物食べるよ？」

「そう思うならパンでもおごつてよ」

麗奈「・・・明久君お昼ご飯食べない人？」

「いや・・・一応食べてるよ」

秀吉「・・・あれは食べてると言えるのかの？」

康太「・・・明久の主食は水と塩」

「失礼な！！僕をバカにするのも程がある！きちんと砂糖も食べてるよ！！」

和哉「それは食べてるとは言わないよ」

葵「正確には舐めるが正解だね」

（何だろう？皆が同情の眼差しを向けてくる）

雄二「まっ飯代を遊びに使い込むお前が悪いな」

「しっ仕送りが少ないんだよ！」

姫路「あの・・・吉井君、もしよかったら私がお弁当作ってきましようか？」

「え？いいの姫路さん!？」

姫路「はっはい明日のお昼でよければですが・・・」

「うん！塩と砂糖以外のものなんて久しぶりだよ！」

島田「・・・ふうん。瑞希って優しいんだね。吉井だけに作ってくるなんて」

姫路「えっあツいえ！／＼その皆さんにも・・・」

和哉「僕たちにも？いいの？」

姫路「はい。嫌じゃなければ」

秀吉「おお、明日の昼は豪華になりそうじゃのう」

康太「・・・楽しみ」

雄二「じゃあ明日の昼は姫路に任せるとして。さて話を戻すぞ。試召戦争についてだ」

島田「ねえ坂本。1つ気になったんだけど、どうしてAでもEでもなくDクラスなの？」

雄二「色々理由はあるんだがEクラスは相手じゃないからだ」

和哉「姫路さんがいるから、正面からやりあってもEクラスには勝てるだろうからかな？」

雄二「その通りだ」

島田「それならDクラスとは正面からぶつかると厳しいの？」

雄二「ああ。確実に勝てるとは言えないな」

「なら初めから目標のAクラスを狙おうよ」

雄二「初陣だからな。派手にやって今後の景気づけにしたいだろ？」

それに、打倒Aクラスの作戦における必要なプロセスだしな」

「でも、Dクラスに勝てなかつたら意味がないよ」

雄二「負ける訳ないさ、お前らが俺に協力してくれるなら勝てる・・・いいか、お前ら。ウチのクラスは・・・最強だ！」

島田「良いわね。面白そうじゃない！」

秀吉「Aクラスの連中を引きずり落としてやるかの！」

康太「・・・(グッ)」

姫路「がっ頑張ります！」

麗奈「・・・頑張る(優璃たちとは戦いたくないんだけど・・・)」

葵「あ、私、振り分け試験受けなかったから0点なんだけど」

和哉「僕も受けてない教科があるんだけど」

雄二「問題ない、開戦と同時に姫路と川崎と一ノ瀬には回復試験に向かってもらうからな。それじゃあ作戦を話すぞ」

そして、僕達は勝利のため雄二の作戦に耳を傾けた。

第3話 & l t ・ 作戦会議 & g t ; (後書き)

今回はAクラスの転校生の話。

その次にFクラス対Dクラスの予定です。

第4話&1t:Aクラスの転校生たち>(前書き)

今回はAクラスsideの話です。

第4話&1t；Aクラスの転校生たち>；

Fクラスで自己紹介が行われているころ。

優璃side

職員室にて。

高橋先生「君たちが転校生の3人ですね？」

宗一郎・薫・私「はい」「」

高橋先生「あとの1人はどこにいますか？」

薫「神楽坂君は親に呼び出されて今、帰省中らしいです」

高橋先生「わかりました。ひとまず、Aクラスに向かいましょうか。」

Aクラス前。

高橋先生「それではここで呼ぶまで待つていてください。」

宗一郎・薫・私「」「わかりました」「」

Aクラスにて。

高橋先生「皆さん、席について下さい。」

生徒たちが全員席に着いたところで、

高橋先生「皆さん、進級おめでとうございます、2・Aクラスの担任の高橋 洋子です。今年一年間よろしくお願ひします」

高橋先生「皆さん全員にリクライニングシート、個人エアコン、冷蔵庫、パソコンは支給されていますか？不備があれば申し出て下さい」

・・・シーン・・・

高橋先生「特にないようですね、では、自己紹介でも始めましょう

か。そうですね、転校生からやってみましょう。神谷さん、桐谷くん、武内さん入ってきてください。」

3人「はい」「」

高橋先生「それではまず、武内さん、自己紹介をお願いします」

薫「武内 薫です 一年間よろしくお願ひします」

A「うちの学園って女子のレベル高いよな」

A「だよな」

高橋先生「次は桐谷君、学年次席として自己紹介をお願いします」

宗一郎「桐谷 宗一郎だ。一応、学年次席だ。一年間よろしく・・・

あと、薫に手を出したらコロ（ゴホン！）なんでもありません」

A男子全員（武内さんには手をだしてはいけない！）

高橋先生「次は神谷さんですね。では、2-Aクラス代表として、

自己紹介をお願いします」

A×45「え？」

「えつと、（うう、緊張する・・・）クラス代表になりました神谷優璃です。・・・至らぬ所もあるかもしれませんが、一年間よろしくお願ひします」

A「てつきり霧島さんが代表だと思ってたよ」

A「つてことは神谷さんと桐谷くんは霧島さんより成績いいんだね・

・・・」

高橋先生「私語は謹んでください」

A×2「すみません」

高橋先生「それでは、自己紹介の続きを廊下側の人から自己紹介をお願いします」

自己紹介終了後。

「はあく緊張した・・・」

薫「優璃は本当に恥ずかしがり屋だね」

宗一郎「だな」

翔子「・・・神谷、高橋先生が呼んでる」

「あ、はい、わかりました。あと優璃でいいですよ」

翔子「・・・ならそう呼ばせてもらおう」

「とりあえず職員室に行つて来ますね」

宗一郎「いつてらう」

職員室にて。

「なにか用ですか？」

高橋先生「ええ、午後の授業はFクラス対Dクラスの試召戦争があるので自習になりますので、この日本史の課題プリントをAクラスの生徒に渡しておいてください」

「わかりました」

Aクラスにて。

薫「まさか新学期初日から試召戦争仕掛けてくるとは思わなかったなあ」

愛子「だよな」

「えっと、工藤さんでしたよね？」

愛子「うん、そだよ、よろしくね優璃ちゃん、薫ちゃん、桐谷君」

「う、うん（薫みたいな人ですね・・・）」

宗一郎「よろしく」

薫「よろしく」で、そつちの2人は木下さんと久保君だけ？」

優子「ええ、そうよ。ところで、代表は高橋先生と何を話してたの？」

薫「なんでもFクラスとDクラスが試召戦争をするから午後は自習でそのプリントを渡しておいてだつてさ」

利光「どうということだい？振り分け試験直後なんだから、クラスの差は点数の差になるんじゃないのかい。Fクラスに勝ち目なんてな

いだろうに」

優子「久保君の言う通りだし、初日から仕掛けるなんていい迷惑だわ」

薫「おもしろそうだしいいんじゃない？私はパソコンで試召戦争の様子でも観てようかな」

愛子「ボクもそうしようかな」

「・・・薫、工藤さん、自習プリント終わってからにしてね」

薫・愛子「え」

優子「『え』じゃないわよ愛子、武内さんも」

薫「名前呼び捨てで構わないよ」

宗一郎「喋る前に課題を終わらしたらどうなんだ？」

薫「ぶっ宗ちゃん冷たいなあ」

「で、宗くんはどっちが勝つとみてるの？」

宗一郎「Fクラスの勝つだろうな」

翔子「・・・私もFクラスが勝つと思う」

愛子・優子・利光「・・・え？なんで？」

宗くと翔子の発言に3人は疑問に思ったらしい。

宗一郎「根拠ならあるぞ、去年の学年末試験の結果を高橋先生に見せてもらったんだが、その時の学年主席が霧島で、学年次席・・・」

利光「姫路さんだね」

宗一郎「そうだ、これほどの成績の持ち主ならAクラス確実のはずだろう？」

優子「たしかにそうね」

愛子「でも、Aクラスにいないよね？あと1人は転校生らしいし」

美穂「あ、あの」

利光「ん？どうかしたのかい？佐藤さん」

美穂「今の話なんです、たしか姫路さん、振り分け試験の最中に高熱で倒れたらしいですよ」

「たしか途中退室は0点だから、多分その人はFクラスにいるね」

愛子「姫路さんがいるならDクラスには勝てるかもね」

宗一郎「まあ、それだけじゃないんだけどな」

薫「とりあえず、観戦しようよ」

優子「そうね」

愛子「そだね」

利光「そうだね」

「薫は課題終わらしてからね」

薫「そんな殺生な〜・・・って、いつの間にか皆、課題終わらしてるし・・・」

宗一郎「薫〜さっさと終わらせろよ〜」

薫「保健体育ならすぐ終わるのに〜・・・」

優璃 side out

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(前書き)

今回はAクラスのオリキャラ(転校生)の紹介です。

ところで前書きって何を書けばいいんでしょうか？

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール

名前：桐谷 宗一郎 性別：男

読み：きりや そういちろう

誕生日：5月3日

身長：184cm 体重：66kg

所属クラス：2-A

得意教科：現代社会

苦手教科：保健体育

趣味：モデルガン収集・ゲーム

特技：射撃・ハッキング

外見：黒髪の短髪で顔は地味だがなかなかのイケメン。

常に改造エアガンを携帯している。

性格：ひねくれ者だが、親友たち（優璃、葵、麗奈、和哉、蓮、特に薫）には心を許している。

親友を傷つける奴にはどんな手段を使っても制裁を加える。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才？の一人。
- ・（武内 薫）と2人で同棲している。
- ・明久と同じマンションで部屋は隣同士。
- ・FFF団全員を10分ほどで片付けれるほど強い。

*

名前：武内 薫 性別：女

読み：たけうち かおる

誕生日：9月23日

身長：159cm(D)

所属クラス：2 - A

得意教科：保健体育・物理・現代社会

苦手教科：古典・数学・化学

趣味：スポーツ観戦

特技：運動系なら何でも

外見：髪はこげ茶色で髪型はショートボブで美人。

性格：自由奔放で友達思い。

性格的に割と愛子と気が合う。

- ・振り分け試験直前に転校してきた天才?の一人。
- ・（桐谷 宗一郎）と2人で同棲している。（親公認）
- ・親が建設業の社長をしており、かなりのお金持ち。

*

文月学園におけるクラス設備の奪取・奪還および召喚戦争のルール

1．原則としてクラス対抗戦とする。各科目担当教師（もしくは学園統治者）の立ち会いにより試験召喚システムが起動し、召喚が可能となる。なお、総合科目勝負は学年主任（もしくは学園統治者）の立会いのもとでのみ可能。

2．召喚獣は各人一体のみ所有。この召喚獣は、該当科目において最も近い時期に受けたテストの点数に比例した力を持つ。総合科目については各科目最新の点数の和がこれにあたる。

3．召喚獣が消耗するとその割合に応じて点数も減算され、戦死に至ると0点となり、その戦争を行っている間は補習室にて補習を受講する義務を負う。

- 4・召喚獣はとどめを刺されて戦死しない限りは、テストを受け直して点数を補充することで何度でも回復可能である。
- 5・相手が召喚獣を呼び出したにも関わらず召喚を行わなかった場合は戦闘放棄と見なし、戦死者同様に補習室にて戦争終了まで補習を受ける。
- 6・召喚可能範囲は、担当教師の周囲半径10メートル程度（個人差あり）。
- 7・戦闘は召喚獣同士で行うこと。召喚者自身の戦闘参加は反則行為として処罰の対象となる。
- 8・戦争の勝敗は、クラス代表の敗北をもつてのみ決定される。この勝敗に対し、教師が認めた勝負である限り、経緯や手段は不問とする。

オリキャラ紹介(2)・試召戦争のルール(後書き)

明日にはDクラス対Fクラスの話を投稿する予定です。

第5話&1t・Dクラス戦・開戦!>t;(前書き)

Dクラス戦です。

第5話 & 1 t ; Dクラス戦・開戦! & g t ;

明久 s i d e

開戦時間になり、Fクラス対Dクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

渡り廊下にて。

(雄二の作戦じゃあまず姫路さんたちが回復試験を受けている間、極力戦死しないように、前線を維持すればいいって言ってたけど、押してはいるもののかかなり厳しいんだけど)

Fクラスは島田さんの数学を中心にDクラスと均衡していた。

D「くそっ！　なんでFクラスの癖にこんな奴がいるんだよ！！」
Dクラスの生徒が叫ぶ。無理もない。圧倒出来ると思っていた相手と均衡しているんだから。

その結果、Dクラスは勝利を焦り隊列が乱れ、Fクラスが徐々に押し始めていたが・・・

塚本「皆落ち着け！島田には数学以外で闘えばなんとかなる！元々地力で優っているのはこっちなんだ！一対一にもちこんで確実に仕留めるんだ！」

D中堅部隊「おおー！！！」

Dクラスの中堅部隊長・塚本の指示で徐々に隊列が整い始め、Dクラスに押し返され始めた。

「くっ・・・まずい(このままじゃ突破されてしまう・・・)」

島田「あつ！数学のフィールドが!？」

島田さんが数学のフィールドからでてしまった。

D x 5「今だ！Fクラス島田に英語勝負で申しこむ！」

「島田さん！(まずい！島田さんが戦死したらとてもじゃないけど

前線を維持できない)」

和哉「Fクラス一ノ瀬 和哉が加勢します！サモン！」

「Fクラス吉井 明久も加勢します！サモン！」

・英語

D 1 (1 2 1点) ・ D 2 (1 0 4点) ・ D 3 (1 1 8点) ・ D 4 (1 3 8点) ・ D 5 (1 2 3点)

V S

一ノ瀬 和哉 (4 2 3点) ・ 吉井 明久 (4 7点) ・ 島田 美波 (5 3点)

「和哉くん！」

和哉「なんとか間に合いましたね」

D 5「何！？400点越えだど！？」

D 4「構うな！数で押し切るぞ！」

島田「吉井、足で纏いよ！」

「島田さんも、同じく足で纏いじゃないか！」

島田「うるさいわね！！(プスツ)」

「目が目がああああ！！(助けに来たのに目突きはひどくない！)」

和哉「なにやってるんですか・・・」

D 3「先にあのバカ2人を片付けるぞ！」

和哉「させません！”爆破”！」

そういつて、和哉の召喚獣の武器のトンファーを敵に向かって投げつけると・・・ドカーン！！

・英語

D 1 (0点) ・ D 2 (0点) ・ D 3 (0点) ・ D 4 (0点) ・ D 5 (0点)

V S

一ノ瀬 和哉 (1 2 3点) ・ 吉井 明久 (4 7点) ・ 島田 美波 (

53点)

トンファーが敵の近くで爆発しDクラスの5人の召喚獣は戦死した。鉄人「戦死者は補修ー!!」

D×5「鬼の補修はいやだー!」

鉄人「安心しろ。“趣味は勉強、尊敬する人は二宮金次郎”と言う、立派な模範生に仕立て上げてやる!」

D×5「助けてくれー!」

島田「ところで、一ノ瀬その点数は一体・・・?」

和哉「ん?英語は得意なんですよ、それに回復試験は英語しか受けてませんので」

「これで相手の中堅部隊はあと1人だね」

塚本「くそっ!そのFクラス3人に古典勝負を申し込む!サモン!」

・古典

塚本(138点) VS 一ノ瀬 和哉(7点)・吉井 明久(9点)・島田 美波(6点)

「あれ・・・?」

島田「古典は無理ー!!」

和哉「あはは?どうしましょ?」

塚本「・・・いくらなんでも酷すぎないか?・・・まあいい、覚悟!」

「2人も撤退するよ!」

島田「敵前逃亡は戦死扱いになるんじゃないの?」

「問題ないよ、須川バリアー!」

・古典

塚本(138点) VS 須川 亮(76点)

須川「味方を盾扱いするんじゃないか？」

「須川君にここは任せて教室に戻ろう」

秀吉「須川よ、助太刀するのじゃ！」

・古典

塚本（138点） VS 須川 亮（76点）・木下 秀吉（119点）

塚本「くっ？また加勢か！」

須川「おらっ！」

塚本「そんな攻撃あたり」

須川の召喚獣が塚本の召喚獣に攻撃を仕掛けるが、あっさりかわされ、

秀吉「隙ありじゃ！」

塚本の召喚獣が回避して体勢を立て直す前に秀吉の召喚獣が塚本の召喚獣の首をはねた。

Dクラス中堅部隊長・塚本、戦死。

源二「塚本！どうしてうちの中堅部隊が全滅してるんだ！？」

Dクラス代表・平賀 源二が本隊を引き連れてやってきた。

「あの人Dクラスの代表だね。（そろそろ・・・）中堅部隊員撤退！！（4人しかのこってないけど）」

須川「了解！！」

秀吉「了解じゃ！」

島田「わかったわ！」

和哉「わかりました！」

源二「逃がすか！！本隊の半分は奴らを追うんだ！所詮はFクラスだ、一対一なら勝てる！」

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」
F本隊全員「おおー！！！」

第5話&1t・Dクラス戦・開戦!> ; (後書き)

お読みいただきありがとうございます。

今日、PVが3000を突破しました。

少しでもこの駄文を覗いてくれた方々に感謝します。

第6話&1t・Dクラス戦・終戦!>t;(前書き)

Dクラス戦です。

第6話&17：Dクラス戦・終戦！>

雄二「待たせたな、明久！」

雄二率いるFクラス本隊が引き連れてやってきた。

雄二「本隊全員突撃だ！！Dクラスの奴らを殲滅するぞ！」

F本隊全員「おおー！！！」

源二「くっ？ 罨か！ 教室前まで引くぞ！（予想通りだ！！、これで坂本の警護が薄くなる！そこに伏兵を仕掛けさせて終わりだ！）とにかく全員戦死を避けるんだ！」

雄二「明久、あとは任せたぞ」

「了解！」

雄二「近衛部隊は俺とFクラス前まで下がるぞ！つて、近衛部隊の奴らどこいった!？」

麗奈「・・・皆Dクラスを追いかけていった」

明久side out

雄二side

Fクラス前にて。

D6「来たぞ！坂本だ！！！」

D7「護衛もないぞ！！！」

D8「さっさと討ち取るぞ！」

「伏兵だと!？」

Dx3「Fクラス代表に物理勝負を申」

麗奈「・・・Fクラス水無月が受けます・・・サモン！」

・物理

D 6 (136点) ・ D 7 (124点) ・ D 8 (118点)

V S

水無月 麗奈 (268点) ・ 坂本 雄二 (92点)

D 8 「いつの間に!?!」

D 6 「まだ、高得点者がいるのか!? 聞いてないぞ!?!」

麗奈 「・・・ここは通さない」

「ほう? Aクラス並じゃないか」

麗奈 「・・・問題文が読めなくても解ける問題が多かったから」

「なるほどな。(水無月も教科によっては戦力になりそうだな) だが、護衛は不要だ」

麗奈 「・・・どういうこと?」

明久 side

その頃、Dクラス前にて。

秀吉 「Dクラス代表に古典勝負を申し」

D 9 「近衛部隊が受けます!」

島田 「Dクラス代表に」

清水 「お姉様」

島田 「ひっ!?!? み、美春!?!」

清水 「お姉様に古典勝負を申し込みます! サモン!」

島田 「ええ!?!? 鬼の補修はいやー!?!」

須川 「島田! 助太刀するぜ!」

清水 「豚野郎は邪魔しないでください!?!」

島田 「吉井! アンタも助けなさいよ!」

「そんな、ヒーロー気取り、現実では通用しない! (僕だって命は

惜しい！）皆、ここで決めるよ！！一気に攻め切るんだー！！」
F×11「うおおー！！」

島田「あとで、殺してやるー！」

僕の指示でFクラスがDクラスの生徒に多対1で勝負を仕掛けていく。

「（！D代表の護衛が甘い！）Fクラス吉井 明久が」

玉野「Dクラス玉野 美紀が受けます！」

「くっ？まだ護衛がいたのか！？」

源二「残念だったね、まあ、吉井君だけなら護衛をだす必要もなかったね」

「たしかに、僕じゃあ倒せないかもね・・・だから姫路さん、よろしくね」

姫路「あ、あの〜」

源二「え？ あ、姫路さん。どうしたの？Aクラスの教室は向こうだよ？」

姫路「えっと・・・Fクラスの姫路 瑞希です。よ、よろしくお願
いします」

源二「あ、こちらこそ」

姫路「その・・・Dクラス平賀くんに現国勝負を申し込みます」

源二「は、はあ。どうも」

姫路「え、えっと・・・サモンです」

源二「あ、ああ。サモン・・・」

・現代国語

姫路 瑞希 (351点) vs 平賀 源二 (149点)

源二「え？ あ、あれ？」

姫路「ご、ごめんなさいっ！」

謝罪の言葉と共に、姫路の召喚獣は大きな剣を振るい平賀の召喚獣

を斬り伏せる。

鉄人「戦争終結！！勝者・・Fクラス！！」

この瞬間戦争は終了し、Fクラスの勝利で幕を下ろした。

第6話&17・Dクラス戦・終戦！&87；（後書き）

あー寒い・・・

後書きって何書けばいいんだろう？

第7話&1t・Fクラス対Dクラス戦後> ; (前書き)

Dクラス戦の戦後対談です。

第7話&1t；Fクラス対Dクラス戦後>；

『戦争終結！！勝者・Fクラス！！』

Aクラスside

宗一郎「予想通りだな」

翔子「・・・雄二はそう簡単には負けない」

薫「ん？雄二つて誰のこと？」

宗一郎「たしかFクラス代表だ」

翔子「・・・私の許嫁・・・じゃなくて幼馴染／／」

そう言つて翔子は頬を赤く染めた。

優子「もしかして霧島さん・・・」

愛子「うん、多分そうなんじゃないのかな？」

利光「意外だね」

3人は心底意外だと顔にでていた。

宗一郎「ま、人の好みをとやかく言う気はないがな」

薫「頑張つて翔子ちゃん！！応援するよ！」

翔子「・・・最近あまり話せてないけど・・・頑張る！」

翔子はそう言つて、右手を握りこんだ。

宗一郎「しっかし今回の試召戦争の意図がよくわからん」

優子「どうゆうこと？」

宗一郎「いや、設備向上を狙うのなら最初は勝てる確率の高いEクラスを狙うのが普通だろ」

優璃「そうだね、負けちゃったらあの設備より酷くなるんだからね」

薫「ちゃぶ台と座布団より酷い設備つて・・・」

愛子「想像したくないね・・・」

優璃「そう考えるとDクラスに仕掛けるのは明らかに不自然だよな」

宗一郎「これは俺の予想だが、Fクラス代表はDクラスとFクラス有利の同盟を結んでCクラスかBクラス、もしくはウチを狙ってるのかもしれない」

利光「だが、そんな同盟誰が好きこのんで結ぶんだい？」

薫「設備交換の免除と引き換えとかなら不利な同盟でも飲むんじゃない？」

利光「たしかにDクラスにとってはメリットしかないし、僕がD代表だったら間違いなくその同盟を結ぶね」

優子「なるほどね、もしDクラスがA・B・Cクラスに仕掛けて負けてもEクラスの設備ですむものね」

宗一郎「まああくまで予想だがな」

優璃「友達もいるからあんまり無理しないで欲しいんだけどね」

優璃は心配そうにそう言った。

利光「そういえば、Fクラスにも3人転校生が来たって聞いたね」

優璃「うん、その子たちだよ、本当ならみんなAクラスの学力があるのに・・・」

優子「Fクラスなら弟がいるはずだから話でもきいてみようかしら」

優璃「私も葵たちに優子さんの弟のこと聞いてみようかな？」

薫「さてと、宗くんそろそろ帰ろっ」

宗一郎「ちょっと用事があるから10分ほど待っててくれ」

薫「はい」

優子「しっかし2人ともえらく仲が良いねー（ニヤニヤ）」

優璃「2人で同棲してるからね」

優子「え？同棲!？」

薫「そうだよ、宗くんは私の許嫁だから」

翔子「・・・羨ましい・・・私も雄二と・・・」

Aクラスside out

和哉 side

Dクラスにて。

葵「勝ったみたいだね」

「そうだね」

F「卓袱台に腐った畳とはおさらばじゃー！ー！！！」

F「坂本雄二さままだな！」

F生徒たちが騒いでいるのを尻目に坂本がDクラスの代表と交渉らしいことを始めた。

「代表、何の話をしているんですか？」

雄二「一ノ瀬か。いや、この後の話をな」

「設備交換のことですか？」

雄二「・・・いや、設備は交換しない」

源二「どういうことだい？」

雄二「そっちがある条件を飲んでくれれば、和平交渉で済んだことにしてもいい」

源二「話を聞かせてくれ」

雄二「タイミングを見計らって、アレを壊して欲しい」

坂本が言うアレとは、Bクラスの外に付いてる室外機。

「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、それはどうなんですか？」

(世の中学力だけじゃないといつても・・・)「」

源二「わかった。まあ注意や罰則はあるかもしれないが、この教室を守るならやろう。だが本当に設備を交換しなくていいのか？」

雄二「なんだ？あのボロい卓袱台と腐った畳が欲しいのか？」

源二「と、とんでもない！」

雄二「俺たちの目標はあくまでAクラスのシステムデスクだ。Dクラスの設備で満足されちゃ困るんでな」

源二「モチベーション維持のためってことか」

雄二「じゃあ俺たちはもう用はないんでな。野郎ども引き上げるぞ」

！

源「ああ。Aクラスに勝てるように祈ってるよ」

雄「本当は勝てる訳ないって思ってた」

源「はは・・・ばれてたか。まあ、頑張ってくれ。期待はしとくよ」

雄「俺たちは勝つさ、今年のFクラスは最強だからな！」

和哉 side out

第7話&1t・Fクラス対Dクラス戦後> ; (後書き)

次回は明日か明後日には投稿する予定です。

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後> ; (前書き)

総合PV5000、ユニーク1000を突破!

これからも『バカと天才?と召喚獣』をよろしくお願いします。

それと、今回からバカテストをやってみようと思います。

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後>

問題1

以下の意味を持つことわざを答えなさい。

- (1) 得意なことでも失敗してしまうこと
- (2) 悪いことがあったうえに、更に悪いことが起きる例え

姫路瑞希・川崎葵の答え

- (1) 弘法も筆の誤り
- (2) 泣きつ面に蜂

教師のコメント

正解です。他にも(1)なら”河童の川流れ”や”猿も木から落ちる”、(2)なら”踏んだり蹴ったり”や”弱り目に祟り目”などがありますね。

58

一ノ瀬和哉の答え

- (2) 踏んだり蹴ったり殴ったり叩きつけたり

教師のコメント

あなたは鬼ですか。

吉井明久

- (2) 泣きつ面蹴ったり

教師のコメント

君もですか。

土屋康太の答え

(1) 弘法の川流れ

教師のコメント

シユールな光景ですね。

源二side

Fクラスが去つてすぐのDクラスにて。

宗一郎「2-Aの桐谷だ、代表はいるか？」

D「代表は桐谷って人が呼んでるよ」

「わかつた、いまいく(桐谷?たしか転校生だよな?)」

宗一郎「アンタが2-D代表か？」

「ああ、D代表の平賀 源二だ」

宗一郎「2-Aの桐谷だ、少し聞きたいことがある」

「なんだい？」

宗一郎「何を交換条件に和平に持ち込んだんだ？」

「・・・どこでそれを?(さっき決まったことなのになぜしているんだ!?)」

宗一郎「さあな?で、さっきの質問の答えを聞かせてくれ」

「・・・悪いが、口止めされているんだ(されてはいないが話さないほうがいいだろ)」

宗一郎「そうか、ならもう一つお前を倒した奴・・・姫路 瑞希で間違いないな？」

「なぜFクラスに姫路さんがいることをしってるんだ!？」

宗一郎「Aクラス確実の成績なんだからAクラスにいなければ必然的になんらかの理由でテストを受けられなかったと考えてるのが妥当だろ」

源二「そうゆうことか」

宗一郎「ああ、今のFクラスはマークしとくにこしたことはないからな」

「AクラスがFクラスをマークする必要があるのか？」

宗一郎「さあな？時間とらして悪いな。礼はまた今度でいいか？」

「礼なんて別に・・・」

薫「宗くん、帰ろっ！」

俺が礼を断ろうとしたとき、後ろから元気そうな女の子が桐谷に飛びついて来た。

宗一郎「わかった！わかったから引張るな！それじゃあな、平賀」

「あ、ああ・・・」

源二 side out

和哉 side

Fクラスにて。

「(Dクラスとの交渉内容、話したら2人とも怒るだろうなあ) 葵さん、麗奈さん、ちよつといいですか？」

葵「どしたの？」

麗奈「・・・どうかした？」

坂本とD代表との交渉内容を2人に説明した。

葵「いくら次のBクラス戦のためとはいえ、Dクラスの人たちにそんなこと押し付けたんだ・・・」

麗奈「・・・代表と話してくる」

「代表はもう帰ったよ」

麗奈「・・・明日、話してみる」

葵「・・・私は次の試召戦争に参加しないからね、そんなことまでして勝ちたくないし」

「僕もそのつもりだよ」

葵「この話は明日にしよう！私は部活いつてくるね」

麗奈「・・・和哉くん、帰る？」

「そだねー帰ろうか」

下足にて。

「あれ？秀吉くん？女子の制服きてなにしてるの？」

優子「何言ってるのよアン・・・キミ！アタシは木下優子よ！」

「え？あ、すみません（え？双子かな？）」

麗奈「・・・秀吉くんの・・・お姉さん？」

優子「そうよ。ところで、あなた達は？」

麗奈「・・・水無月 麗奈、2-F」

「あ、転校生の1ノ瀬 和哉です。2-F所属です。」

優子「え？同じ年なの？てつきり、水無月さんの弟かなにかかと・・・」

「・・・」

「・・・はあ（そんなに年下にみえるのかな・・・（シクシク））」

優子「え？えつと・・・（触れちゃいけないものに触れたみたいね）」

麗奈「・・・気にしなくていい、いつものことだから」

「いつものことだからは酷くないですか？（シクシク）」

優子「たしかに見た目は小がk」

「・・・もうやだ」

麗奈「・・・和哉くんが拗ねた」

優子「あ、ごめんね、一ノ瀬くん。」

（どうせ僕は小学生みたいですよ・・・）

麗奈「・・・いつものこと、和哉くん、帰る・・・木下さん、さようなら」

優子「え、ええ、さようなら」

和哉 side out

第8話&1t・Fクラス対Dクラス戦後の放課後> ; (後書き)

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第9話&17：必殺料理人・転校生たちの考え&get；（前書き）

茜さん、ミヤサカさん、感想ありがとうございます。

第9話 & 11t : 必殺料理人・転校生たちの考え & gt ;

問題2

問：調理の為に火にかける鍋を制作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題とマグネシウムの代わりに用いるべき合金の例を1つあげなさい

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉の答え

問題点：マグネシウムは炎にかけると、激しく酸素と反応するため危険だから

合金の例：ジユラルミン

教師のコメント

正解です。合金なので鉄ではダメと言うひっかけ問題なのですが、引っかかりませんでしたね。

水無月麗奈の答え

問題点：A question can't be read .

合金の例：Same as the above .

教師のコメント

水無月さんは帰国子女でしたね。早く日本語をマスターできるようにがんばってください。

土屋康太の答え

問題点：ガス代を払ってなかった事

合金の例：
教師のコメント
そこは問題じゃありません

吉井明久の答え

問題点：

合金の例：未来合金（ すごく強い）

教師のコメント

すごく強いと言われても・・・

Dクラス戦の次の日。

Fクラスにて。

「昨日消耗した奴は今日の午前中に回復試験を受けてくれ！次はBクラスを制圧するぞ！」

F×41「おおー！！！」

明久「さてと、一時間目はすうがくグハツ！？」

島田「吉井！昨日はよくも見捨ててくれたわね！骨の2、30本は覚悟しなさい！」

明久「腕にとんでもない激痛がー！！！」

昼休み。

葵「代表、ちよっといいかな？」

雄二「ん？なんだ？」

葵「私と麗奈と和くんはBクラス戦には参戦しないからね」

雄二「は？ちよつと待て！どういうことだ！？」

麗奈「・・・代表は間違ってる」

和哉「それに世の中学力がすべてじゃないって事を証明したいといつてたのに、結局は姫路さん頼みだからね」

雄二「・・・なぜそれを知っている？」

和哉「明久との立ち話を盗み聞きしてましたから」

雄二「そうか・・・どうしても参戦する気がないか？」

雄二は少し困り気味にそう言った。

葵「ないですね」

和哉「まあ、負けたところで設備ダウン以外特に困ることもないですし」

雄二「そうか・・・なら賭けをしないか？」

麗奈「・・・??」

葵「賭け・・・ですか。内容は？」

雄二「Bクラス戦をお前ら抜きで勝ったら、その次のAクラス戦に参戦してもらう」

和哉「負けた場合は？」

葵「霧島さんと結婚で、どうかな？」

雄二「は？待て！なぜ翔子のことをしってるんだ！？」

雄二は驚きながら葵に問い返した。

葵「ん？Aクラスの子に聞いたただだよ」

和哉「霧島さんって誰？」

葵「Aクラスの子だよ、代表の幼馴染（ゴホン！）許嫁だったさ」

雄二「ちがうわ！・・・まあいいだろう、その条件でいいのか？」

和哉「まあ、勝てないだろうからいいですよ」

雄二「後悔すんぞ？」

和哉「代表がね」

ガララッ！

明久「うう、酷い目にあつた・・・」

葵「あれ？吉井君？昼ご飯食べに行つたんじゃないの？」

和哉「あと秀吉と康太はなんで震えてるの？」

島田「さあ？購買でもいこうかな」

麗奈「・・・昼ご飯食べてなかつたの？」

島田「ウチが行く前に吉井達が全部食べちゃつたのよ、それじゃ購買いってくるわ」

そういつて島田は購買に向かつてつた。

康太「・・・地獄をみた（ガタガタ）」

秀吉「まさか、姫路の料理があそこまで酷いとはのう・・・（ガタガタ）」

雄二「・・・意外だな、姫路にそんな苦手教科があるとは」

午後。

雄二「次のBクラス戦なんとかなるか・・・？」

島田「え？次の相手はBクラスなの？」

雄二「ああ、そうだ」

島田「どうしてBクラスなの？目標はAクラスなんでしょう？」

雄二「正直に言おう。どんな作戦でも、うちの戦力じゃAクラスには勝てない」

秀吉「それじゃあワシらの最終目標はBクラスに変更なのかの？」

雄二「いや、Aクラスをやる」

明久「意味がわからないよ？」

雄二「クラスだと差がありすぎるから、一騎討ちに持ち込む。それにBクラス戦が必要だということだ」

和哉「BクラスにAクラスを攻めさせる素振りを見せさせて、Aクラスに脅しをかけ一騎討ちに持ち込むってことですか？まあ、僕は参戦しないから関係ないですが」

明久「え？どうしてさ!？」

明久が和哉を問い詰めるように聞いた。

和哉「代表のやり方が気に食わないからかな」

雄二「まあ、そうゆうことだ。だか、お前ら抜きでBクラス戦に勝つたらAクラス戦にはでてもらうからな！」

和哉「約束は守りますよ」

雄二「で、明久。さっさと宣戦布告してこい」

明久「絶対にいやだ」

葵「戦争でないんだし私がいつてくるよ」

雄二「なら川崎に任せるか」

葵「はい、いつてきますね」

第9話&17：必殺料理人・転校生たちの考え&get；（後書き）

次回から、Bクラス戦の予定です。

ご意見、ご感想があればよろしくお願いします。

第10話&11話：Bクラス戦・開戦！>（前書き）

Bクラス戦です。

第10話&It;Bクラス戦・開戦!>

問題3

以下の英文を訳しなさい。

This is the bookshelf that my
grandmother had used regularly.

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎・武内薫の
答え

A・これは私の祖母が愛用していた本棚です。

教師のコメント

正解です。きちんと勉強していますね。

水無月麗奈の答え

A・これはわたしのおばあさんがよくつかっていたほんだなです。

教師のコメント

正解ですが、漢字はまだ難しいみたいですね。

土屋康太の答え

A・これは

教師のコメント

訳せたのはThisだけですか

吉井明久の答え

A

教師のコメント

出来れば地球上の言語でお願いします。

A クラス side

優璃「今日の午後からFクラスがBクラスに仕掛けるんだってさ」

愛子「え？昨日Dクラスを倒した所なのにな？」

宗一郎「回復試験は午前中に全部済ませたみたいだな」

優子「でも、Dクラスに仕掛けさせてからFクラスがしかけるんじゃないかったの？」

薫「だよな〜Fの代表さんは何考えてるんだらうね？」

宗一郎「ここで負けたら単なる底抜けのバカだとわかるんだがな」

利光「Bクラスにも勝つと言うのかい？」

宗一郎「今回ばかりはわからん」

宗一郎は頭を掻きながらそう言った。

優璃「そういえば明日には蓮くん学校に来るそうだよ」

優子「蓮くん？神楽坂くんのこと？」

愛子「そういえば神楽坂君ってどんな子なの？」

薫「天然さんだね」

優璃「早く来ないかな、色々とききたいこともあるし」

翔子「・・・優璃はその人の事が好き？」

優璃「へ？違うよ、なんで振り分け試験で手を抜いたのかをききた

いんだよね」

利光「どうゆうことだい？」

宗一郎「本来なら蓮のほうが優璃より点数いいからな、ちなみにあいつ振り分け試験は3教科しか受けてなかったはずだぞ」

優子・愛子「はい？」

利光「そ、そんなんでよくAクラスには入れたね？」

宗一郎の蓮の話に、優子・愛子・利光は啞然とした。

宗一郎「あいつは天才様だからな。さて、自習だし俺は寝るかな」

薫「膝枕でもしようか？」

宗一郎「結構だ」

薫「宗くん冷たいなあ〜」

Aクラスside out

和哉side

開戦時間になり、Fクラス対Bクラスの試召戦争の火蓋は切つて落とされた。

雄二「よし、行ってこい！目指すはシステムデスクだ！」

F「「「「「サー！イエツサー！！」「」「」」

「この人たちでBクラス前線部隊を抑えられるの？」

葵「問題ないんじゃないかな？隊長の姫路さんは数学で腕輪持ちだつたし」

ガラッ！

B「Bクラスからの使者だ。Fクラスにクラス間交渉に来た」

雄二「・・・内容はなんだ？」

B「四時までに決着がつかなかったら戦況をそのままにして続きは

明日午前九時に持ち越し。その間は試召戦争に関わる一切の行為を禁止する、だ」

雄二「いいだろう、協定を結ぶ」

B「そうか、じゃあ調印をするから新校舎の空き教室に来てくれ」

雄二「わかった、近衛部隊ついて来い！」

雄二は新校舎の空き教室に向かっていった。

葵「絶対罠だよ」

「多分ね」

麗奈「・・・知らせなくてもいいの？」

和哉「代表にも策があるんだと思うよ」

ガラツ！

B1「え？何故人がいるんだ!？」

B2「話と違うじゃないか！」

突然、Bクラスの二人が教室に入ってきた。

葵「え?・・・Bクラスのお二方、何が用でもありましたでしょうか?」

B2「仕方ない!向こうはFクラスなんだ!サツサと片付けて、やることすまずぞ!」

B1「了解!!斎藤先生!あのFクラスの3人に現代社会勝負を申し込みます!サモン!」

B2「サモン!」

葵・和哉・麗奈「」「サモン!」「」

・現代社会

B1(196点)・B2(184点)

VS

川崎葵(796点)・一ノ瀬和哉(18点)・水無月麗奈(2点)

麗奈「・・・歴史系は問題文が漢字ばかりだから無理」

葵「麗奈は仕方ないとして、和くん・・・」

「ごめんなさい・・・」

B1「ちょ？なんだよその点数！！」

B2「勝ち目ないじゃないか！」

葵「で、ここになにしにきたの？」

B2「言う訳ないだろ！？」

葵「そう、ならさようなら（ニコ）」

スパン！スパン！

Bクラス2人の召喚獣は一瞬にして葵の召還獣に閃され、戦死した。

鉄人「戦死者は補修ー！」

B1「鬼の補修はいやだー！」

B2「助けてくれー！！」

葵「ねえ、あの人たちなにしにきたんだろっね？」

「宗くんや優璃さんに聞いてみる？」

麗奈「・・・宗くんならなにかわかるかも」

ガラッ！

雄二「今戻ったぞ、ところでさっきBクラスの二人を抱えている鉄人とすれ違ったが・・・お前らか？」

そこにちょうど代表が戻ってきた。

葵「補修はいやだからね」

雄二「そうか」

ガラッ！

明久「ただいま」

秀吉「ただいまなのじゃ」

姫路「只今戻りました」

島田「戻ったわよ。ねえ坂本、アンタBクラスと協定結んだの？」

雄二「ああ、四時以降は試召戦争を禁止して翌日の9時から再開するというものだ」

明久「どうしてそんな協定結ぶのさ！？こっちのモチベーションが下がりかねないよ！！」

雄二「……たまには的を得たことを言うんだな、明久」
代表は明久の発言に心底驚いたようだ。

明久「たまには余計だよ!!!」

雄二「まあ待て、理由は姫路の体力が持たないからだ」

明久「姫路さんの?」

雄二「今の主戦力は姫路なんだ、姫路がまともに戦えなければ下校時間まで続けても不利になるだけだ」

島田「なるほどね、そういうことなら」

康太「……雄二」

いつのまにか近くにあった康太が雄二を呼んだ。

雄二「どうした? ムツツリーニ」

康太「……Cクラスの様子が怪しい」

雄二「なんだと! ……漁夫の利狙いか」

秀吉「流石にBのあとCと連戦なんてことになると思わなかったぞ
い」

島田「どうするのよ!?!」

雄二「そうだな……Cクラスと不可侵条約を結ぶか」

「それは協定違反じゃないかな? たしか協定内容には『試召戦争に
関わる一切の行為を禁止する。』って言ってたし」

葵「最悪の場合、Cクラスに潜んでいて、不可侵条約を結んだ瞬間
仕掛けてくる可能性だってある。それに、C代表って茶道部の小山
さんでしょ?」

康太「……(コク)」

葵「この前、B代表と2人でお話してたよ?」

康太「……俺の知らない情報……だと!?!」

島田「で、でも、流石にそこまで考えてないんじゃない?」

雄二「……いや、B代表はあの根本だからな、充分考えられる」

麗奈「……根本?」

秀吉「カンニングの常習犯で窃盗など当たり前、喧嘩にはナイフを
携帯しているという”卑怯者”の根本かの?」

和哉「そのCクラス代表の小山さんってかなり趣味悪いね」

康太「・・・顔はいいのにもつたいない」

雄二「だが、このままって訳にもいかねえ・・・いや、いい策を思いついた」

明久「ほんと!？」

雄二「ああ、作戦は明日話すから今日は解散だ!」

Cクラスにて。

根本「くそ!何故奴らがこないんだ!」

小山「恭二、クラスの皆を帰らしていいかしら?」

根本「あ、ああ」

小山「皆、もう帰ってくれて構わないわ!」

根本「仕方ない、この前盗んでおいた”コイツ”で姫路を脅すか
その手には姫路が書いたラブレターをもっていた。

第10話&11話；Bクラス戦・開戦！>；（後書き）

次回、転校生がもう1人来ます。

ご意見、ご感想がありましたらよろしくお願いします。

第11話&17:遅れてきた転校生とFクラスの作戦&87;(前書き)

フラグってたてるの難しいですね・・・

第11話 <math>1t</math>: 遅れてきた転校生とFクラスの作戦 <math>gt</math>;

問題4

以下の問いに答えなさい

(1) $4 \sin X + 3 \cos 3X = 2$ の方程式を満たし、かつ第一象限に存在する X の値を1つ答えなさい。

(2) $\sin(A+B)$ と等しい式を示すのは次のどれか、 $?$ の中から選びなさい。

? $\sin A + \cos B$? $\sin A - \cos B$? $\sin A \cos B$
O S B ? $\sin A \cos B + \cos A \sin B$

姫路瑞希・川崎葵・一ノ瀬和哉・神谷優璃・桐谷宗一郎の答え

- (1) $X = \frac{\pi}{6}$
(2) ?

教師のコメント

正解です。角度を『 \cdot 』ではなく『 \circ 』でかいてありますし、いうことありません。

土屋康太(武内薫)の答え

- (1) $X = \frac{\pi}{6}$ およそ (多分) $\frac{\pi}{6}$ / $\frac{\pi}{6}$
(2)

教師のコメント

ごまかしたい気持ちもわかりますが、これでは回答に近くても点数はあげられません。

あと、武内さんは正解ですが真面目にやってください。

吉井明久の答え

(1)

(2) およそ？

教師のコメント

先生は今までたくさんの生徒を見てきましたが、選択問題でおよそをつける生徒は君が初めてです。

次の日。

優子 side

朝の通学路にて。

(寝坊したー！急がないと遅刻して・・・(ドン！))

向こうから歩いてきた柄の悪そうな3人のうちの一人にぶつかってしまった。

「あ、すみません」

男a「いつてーな！どこみてやがんだ！」

男b「これ骨おれちゃったかもな〜どうしてくれんだ！慰謝料払えや！」

男c「まあ金なんて持ってないだろうから代わりに少し遊ばっぜ」

「はい？ふざけないで！」

男a「まあ、いいじゃねえか。一緒に楽しいことしようぜ？」

「嫌だつて言ってるでしょ!!」

男b「ちつ、しょうがねえ、力づくでいくか・・・。」

「え?ちよ、ちよつと・・・(誰か助けて・・・!)」

柄の悪そうな男たちの一人がアタシの腕をつかもうとしたとき、

男a「ぐあつ!?!」

男b「おい!?!どうsぐほつ!?!」

不意に鈍い音が響き、その男は倒れた。更に次の瞬間には、もう一人、気絶していた。

その横に、文月学園の制服を着た男子がたっていた。

男c「な、なんだお前は?!」

蓮「さあ?誰でしょう?」

男c「てめえ、なめやがつ(バキッ!)腕がああー!!?!」

蓮「さてと・・・(バキボキ)」

男c「待つてくれ!?助けてくれ!」

蓮「んー・・・いいですよ、その代わりそこに転がってる2人を連れてつて下さいね」

男c「わ、わかった(ガタガタ)」

そう言つてその男は2人を連れて逃げていった。

蓮「大丈夫?怪我、してない?」

「え、ええ。大丈夫、ありがとう。(か、かつこいい/!/)」

蓮「君も文月学園の生徒なんだね?」

「え、ええ、そうよ」

蓮「なら学園まで一緒にいきますか?」

「え?/!/」

蓮「さつきみたいなの連中に絡まれると厄介ですし、今からだと走つた所で遅刻確定ですから・・・大丈夫ですか?さつきからずっと顔真つ赤ですけど・・・」

「ふえ!?!/!/だだ大丈夫よ!!!えつと・・・」

蓮「あ、神楽坂 蓮といます」

「え!?!じゃあ転校生の・・・/!/」

蓮「ん？知ってるってことは2-Aクラスですか？」
「ええ、木下 優子よ、よろしくね神楽坂君／＼」
蓮「蓮でいいですよ、そろそろ学園に行きましょう、木下さん。遅刻とはいえ早く行ったほうがいいでしょうから」
「え、ええ／＼／＼そうね／＼／＼」

優子 side out

その頃学園では。

Fクラスにて。

雄二「昨日いつていた作戦を実行する！！」

明久「作戦？でも開戦はまだだよ？」

雄二「明久Bクラスにじゃないぞ？」

明久「へ？」

雄二「Cクラスだ」

明久「なるほど。何をするの？」

雄二「秀吉にコイツを来てもらう」

雄二はそういつて女子の制服を取り出した。

和哉「代表・・・そうゆう趣味が・・・？」

雄二「ちがうわ！」

秀吉「別に構わんが、ワシが女装してどうするんじゃ？」

葵「少しは嫌がろうよ・・・」

雄二「ああ、秀吉にはAクラスの木下優子を装ってもらおう。秀吉、

これに着替える」

秀吉「うむ。」

そういつて秀吉は着替え始めた。

康太「・・・・・・・・！！（パシャパシャパシャパシャ！）」

葵「秀吉君・・・そんなことしてるから女の子にみられるんじゃ・・・」

？」

秀吉「よし、着替え終わったぞい。ん？皆どうした？」

気がつくとFクラスのほとんどの男子が鼻血を噴いて倒れ、姫路と島田は膝をついて落ち込んでいる。

和哉「さあね？」

秀吉「？おかしな連中じゃの」

雄二「んじゃ、Cクラスに行くぞ」

秀吉「うむ」

明久「あ、僕も行く！」

Cクラス前。

雄二「ここからは一人で頼むぞ秀吉」

明久「Aクラスの使者だから、Fクラスの僕らは一緒に行けないからね」

秀吉「気が進まんのか・・・」

そっぴいなながら、秀吉はCクラスに向かっていった。

明久「雄二、秀吉は大丈夫なの？」

雄二「多分大丈夫だ」

明久「秀吉が教室に入るよ？」

雄二「明久静かにしろ」

秀吉がCクラスに入って行って・・・

秀吉（優子）「静かにしなさい！この薄汚い豚ども！」

明久「うわあ。これ以上はない挑発だね・・・」

雄二「流石秀吉だな」

小山「な、何よあんだ！」

秀吉（優子）「話し掛けなしで！豚臭いわ！」

小山「Aクラスの木下ね？なんの用よ！」

秀吉（優子）「私はね、こんな醜い教室があるのが我慢ならないの！貴方達なんて豚小屋で充分だわ！」

小山「何ですって！Fクラスがお似合いですって!？」

秀吉（優子）「手が汚れてしまうから本当は嫌だけど、特別に今回は貴女達を相応しい教室に送ってあげようかと思うの。ちよつど試召戦争の準備もしている様だし、覚悟しておきなさい。近いうちに、私達が薄汚いブタの貴女達を始末してあげるから！」

そう言い残し、靴音を立ててCクラスから秀吉がでてきた。

秀吉「これで良かったかのう？」

雄二「上出来だ」

小山「Fクラスなんて相手にしてられないわ！ Aクラス戦の準備を始めるわよ！」

Cクラスの矛先は完全にAクラスに向けたようだ。

明久「作戦もうまくいったし、僕達も今日の戦争の準備をしよう。

あと10分で始まるよ」

雄二「そうだな」

第11話&1t:遅れてきた転校生とFクラスの作戦&8t:(後書き)

次回はBクラス戦の続きを投稿する予定です。

ご意見、ご感想等ありましたらよろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1068z/>

バカと天才？たちと召喚獣

2011年12月15日01時45分発行